

令和4年産 麦栽培講習会資料

令和3年10月1日
JAたかさき
西部農業事務所普及指導課

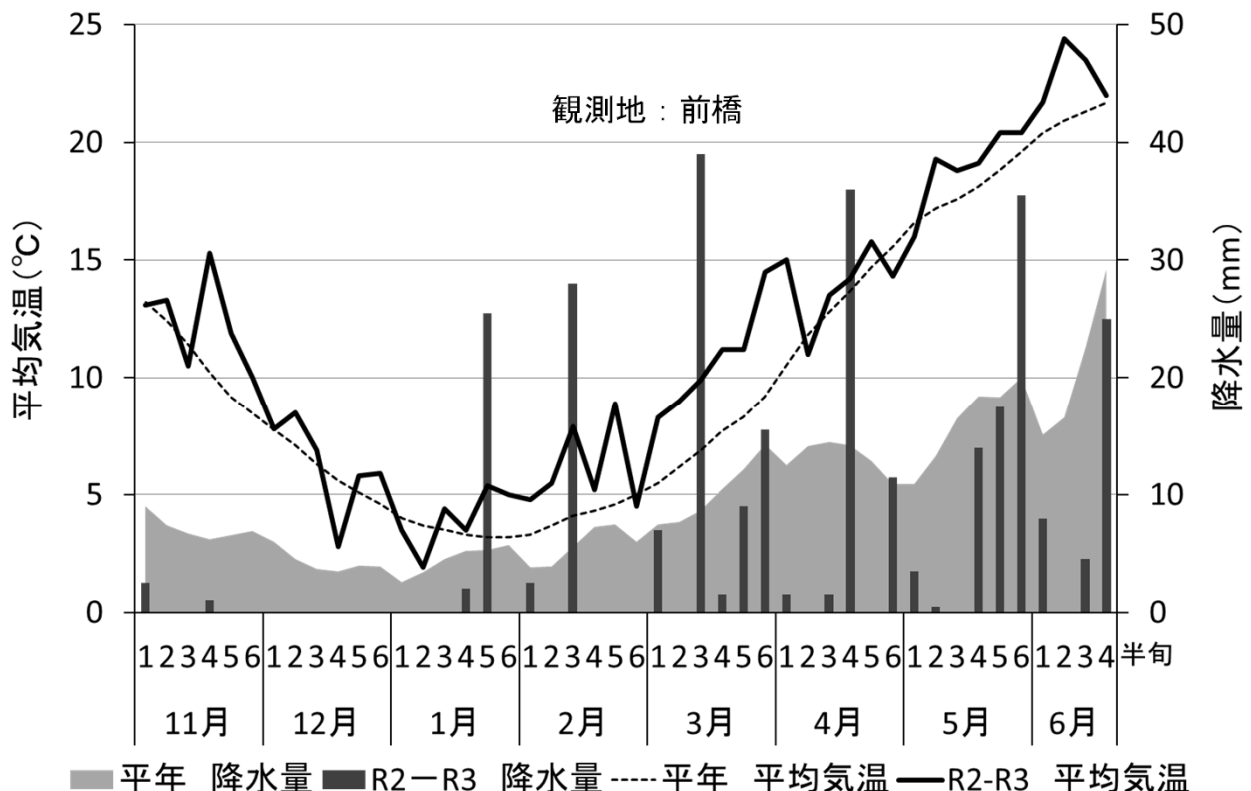
1 令和3年産麦の振り返り

品種	等級	ランク	タンパク質%	灰分%	容積重g/L	FN
さとのそら	2	A	10.7 ○	1.51 ○	847 ○	438 ○
きぬの波☆	2	A	9.8 ○	1.51 ○	855 ○	434 ○
ゆめかおり★	1	A	10.3 ▲	1.43 ○	851 ○	468 ○
日本めん用小麦 (やや低・低アミロース品種☆:許容値)		基準値 許容値	9.7%~11.3% 8.5%~12.5% (8.0%~13.0%)	1.60%以下 1.65%以下	840g/L以上 —	300以上 200以上
パン・中華めん用小麦★		基準値 許容値	11.5%~14.0% 10.0%~15.5%	1.75%以下 1.80%以下	833g/L以上 —	300以上 200以上

品種	等級	ランク	細麦率%	白度	容積重g/L	硝子率%
シュンライ	2	A	0.1 ○	46 ○	714 ○	43 ▲
主食用小粒大麦		基準値 許容値	2.2mm篩下に2.0%以下 —	43以上 40以上	690g/L以上	40%以下 50%以下

※基準値を満たす：○ 許容値を満たす：▲

※ランクA:基準値を3つ以上かつ許容値を全て達成、B:基準値を2つ以上かつ許容値を全て達成
C:基準値を1つかつ許容値を全て達成、又は基準値を2つ以上達成するが許容値を達成していない



2 排水対策

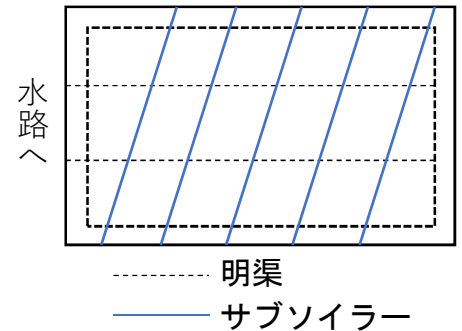
播種後の生育不良を防ぐため、湿害を受けているほ場では排水対策を行う。

(1) 深耕による心土破砕

サブソイラー等で固い作土層を破砕し、排水性を良くして土壌を軟らかくする。

(2) 明渠による排水

ほ場の周囲及びほ場内5~10m毎に30cm程度の溝をつくり、排水路につなげてほ場の水を排水しやすいように明渠を設置する。



3 枯れ熟れの要因と対策

枯れ熟れの主な要因	対策	効果
高温乾燥による枯死	深耕の実施 麦踏みの実施	根域の拡大 分けつの促進、根張りの促進
湿害による根の傷み、 生育不良	排水対策	湿害対策、根の活性維持
肥切れによる養分不足	適期追肥の実施 雑草対策	植物体の活力維持、増収、タンパク質向上、養分競合の防止

4 土づくり

(1) 深耕

・作土の深さは15cm以上になるよう耕耘し、作土深を確保する。

(2) 有機物の施用

・土壌の種類及び土性に応じて、堆きゅう肥、稲わら等の有機物を施用して地力を高める。

(3) 土壌改良剤の施用（土壌診断の実施）

・麦類は酸性土壌によって根の生長を阻害されるため、土壌酸度の改善を行う。

pHの目標値 : 6.0~6.5

酸度矯正 : 苦土石灰 又は ケイカル 100~150kg/10a

リン酸の補給 : ようりん 60kg/10a

5 肥培管理

- ・ほ場の地力や品種特性に応じて適正な量を施用する。
- ・追肥ができない場合は、基肥一発肥料を施用する。
- ・追肥は、茎立ち前にむら直しを兼ねて実施する。
- ・「ゆめかおり」は、**必ず出穂期頃**に窒素成分で2~4kg/10a程度の追肥を行う。
- ・「シュンライ」は、タンパク質含量が高まると硝子率も高まるため、茎立ち期以降は追肥しない。また、畑作では水田作よりもタンパク質含量が高くなりやすいため、注意する。

窒素施肥量の目安（単位：kg/10a）

品種	さとのそら	きぬの波	ゆめかおり	シュンライ
基肥窒素量	8~10	6~8	6~7	6~9
追肥窒素量	2~3	4~6	2~4	2~3

6 播種

(1) 播種時期

◎適期播種が収量に大きく影響する。

- ・早播き—幼穂の凍霜害や縞萎縮病、枯れ熟れの発生を助長する。
- ・遅播き—有効分げつが減少、出穂・成熟が遅れ減収する。

※共同で赤かび病の防除を行う場合は、適期防除できるように、地域内で播種時期を検討してください。

地域	播種期
平坦地（200m以下）	11月中旬～下旬
中山間地（200～400m）	10月下旬～11月上旬

(2) 種子消毒

- ・小麦なまぐさ黒穂病、大麦斑葉病等種子伝染病害の防除を行う。
※小麦なまぐさ黒穂病は、特に畑作で出やすくなるので注意する。
- ・播種後にハト・スズメ等の食害がある場合は、忌避剤を用いる。

作物名	薬剤名	適用病害虫
麦類	ベンレートTコート	条斑病、なまぐさ黒穂病、 裸黒穂病、斑葉病
麦類	ベンレートT水和剤20	
麦類	キヒゲンR-2フロアブル	キジ、スズメ、ハト

(3) 播種量

- ・厚播きすると過繁茂、軟弱徒長の原因になり、倒伏の危険が増し、減収や品質低下につながる。
- ・湿害を受けやすいほ場や、播き遅れの場合は播種量を増やす。
適期から、10日遅れ—20%、20日遅れ—30%程度増量する。

密条播 (ドリル播) での 播種量の基準	品種	播種量 (kg/10a)
	さとのそら、きぬの波	6～8
	ゆめかおり	7～8
	シュンライ	8～10

7 麦踏み

麦踏みの効果—分げつを促進、耐寒性や耐倒伏性を高める。

生育にあわせ、3～4回実施する。

※茎立ち期（3月上・中旬）以降の麦踏みは、茎を折ったり、幼穂を傷つけるので避ける。

麦踏み時期	回数	備考
本葉3葉期（12月中旬）	1回	麦が小さい頃は軽い麦踏みとする
1～2月	2、3回	暖冬の年や出芽数が不足、過繁茂の時は1～2回多く行う

8 難防除雑草対策

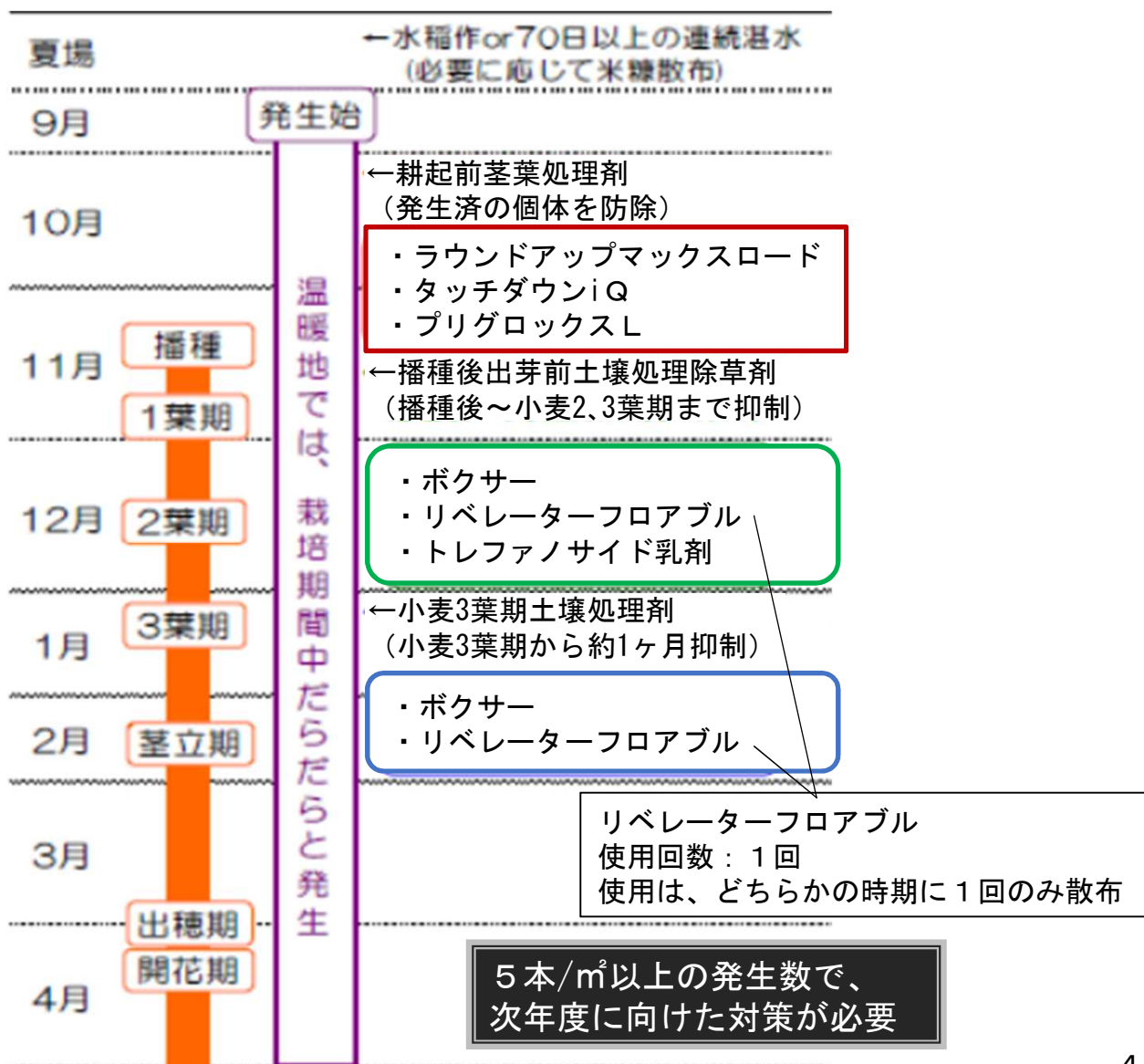
- (1) スズメノテッポウ (引用：福岡県、(国)農業・食品産業技術総合研究機構)
- ・可能な範囲で晩播する。
 - ・適度に土壤水分がある状態で散布する。→ 午前 播種、午後 除草剤散布
 - ・散布時に土壤が乾いていれば、水量を多くする。
 - ・抵抗性雑草に効く除草剤を使用する。

ボクサー、ムギレンジャー乳剤、バンバン細粒剤F・乳剤、リベレーターG・フロアブル

- ・播種前に繁茂している場合、または、播種後出芽前に発生がある場合は、非選択性除草剤を散布する。
- ・スズメノテッポウ2葉期頃までに‘ボクサー’で追加防除する。

農薬名	作物名	適用雑草	使用時期	使用回数
ボクサー	小麦	一年生雑草	播種後～麦2葉期 (雑草発生前～発生始期)	2回以内
	大麦			
	小麦		麦2葉期～4葉期 (雑草発生前～発生始期)	

- (2) ネズミムギ (引用：静岡県、(国)農業・食品産業技術総合研究機構)



9 雑草防除

- ・播種直後速やかに土壌処理剤を散布する。
- ・土壌処理剤は、同一薬剤を連用すると抵抗性雑草の発生を助長するので、ローテーションして使用する（下記表のとおり）。
- ・除草剤の効果を高めるため、碎土は細かく丁寧に、播種後はローラーで鎮圧
- ・覆土は2～3cmとし薬害を抑える。

農薬名	成分名：作用機構分類(HRAC)
ボクサー	プロスルホカルブ:15
クリアターン乳剤	ベンチオカーブ:15、ペンディメタリン:3、リニューロン:5
リベレーターフロアブル	ジフルフェニカン:12、フルフェナセット:15
ガレース乳剤	ジフルフェニカン:12、トリフルラリン:3

- ・生育期に雑草が繁茂する場合は、茎葉処理剤による防除を行う。

発生している雑草	茎葉処理剤 例
スズメノテッポウ、広葉	ハーモニー75DF水和剤 (抵抗性スズメノテッポウに注意)
カラスノエンドウ、ヤグルマギク、広葉	アクチノール乳剤
ヤエムグラ、広葉	エコパートフロアブル

10 赤かび病防除 引き続き防除の実施をお願いします

- ・毒素デオキシニバレノール（かび毒）の検出が**基準値1.0ppm**を超えてはいけない。（※R4年4月1日～ 暫定基準値1.1ppm → 基準値1.0ppmで施行される）
- ・発生が多くなる条件
 - 春先暖かい
 - 出穂期前後の気温が高く、降雨が多い場合
 - 凍霜害により不稔が発生する場合

- ・農薬散布適期

小麦：開花始期～盛期（出穂7～10日後）

六条大麦：穂ぞろい期

※1回目の散布後、降雨が多く、多発条件が続く場合は、1回目から7～10日後に2回目を実施

薬剤名	作物名	使用時期	使用回数
トップジンM水和剤	小麦	収穫14日前まで	出穂期以降は2回以内
	大麦	収穫30日前まで	出穂期以降は1回以内
ストロビーフロアブル	小麦 大麦	収穫14日前まで	3回以内
ワークアップフロアブル	麦類	収穫7日前まで	3回以内

※本資料記載の農薬は、令和3年9月8日現在登録のあるものです。

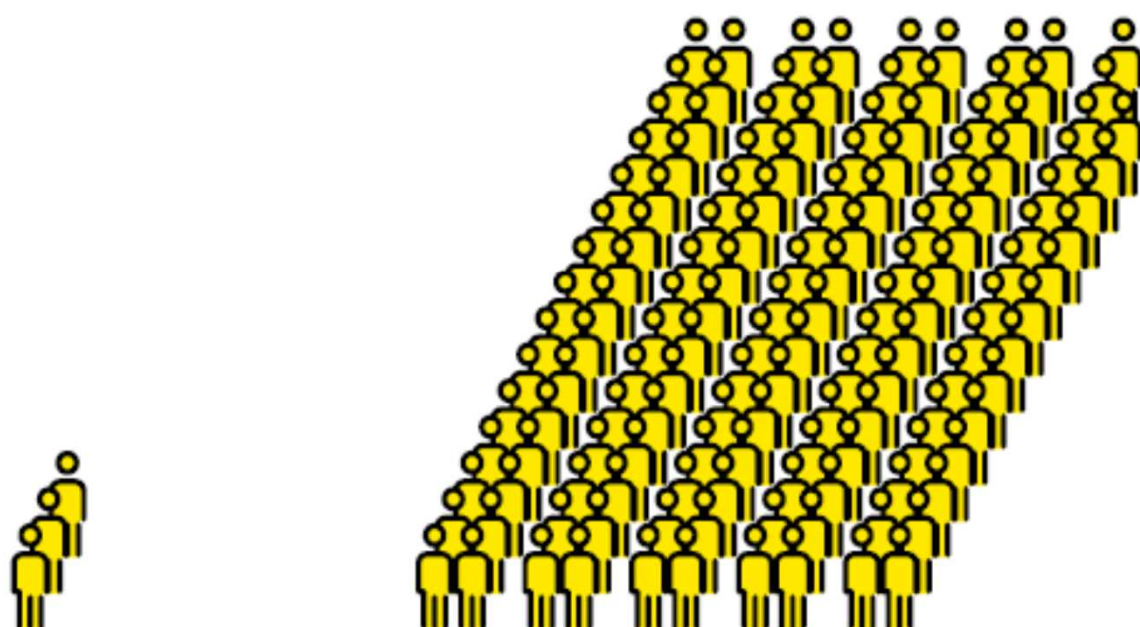
※農薬使用時はラベルをよく確認し、基準を守り、ドリフトに注意して作業しましょう。

＼ 着けててよかった！ シートベルト

トラクター等の交通事故による死亡者数

シートベルト着用あり

シートベルト着用なし



3人

148人

※農耕車の公道での交通事故による死傷者計(平成27～令和元年度合計:697人)の内数
(公財)交通事故総合分析センターの集計結果より作成

トラクターを運転するときは
シートベルトを着用しましょう!!

令和3年秋の農作業安全確認運動

農林水産省